

## 天胡星

人生の峠を越え、人間の肉体は時間とともに歳を取り、それに伴って、弱さが蓄てきます。

しかし、困った事に、歳を取らない事です。

つまり肉体に比例して心も歳を取ってくれば老境の日々も、それなりに楽しいものになるのですが、それには人間自身が相当に精神の錬磨を重ねなければならないのです。

肉体は弱まり、病に犯された心は時として、むなしく過去へ未来へと飛びまわる世界、それが天禄星の世界なのです。

天胡星の世界は、有意識(現実面)の中であって、すでに無意識(精神面)の世界に近いのです。その事が、現実性を根底においた感覚の世界になっているのです。(天胡星のもつ思考法と心理作用は、どの星より複雑ですが行動面での複雑さはありません。また大変に「ロマンチック」という意味があり、すべての事象を美化しようとするのです。そのため人を疑うことがなく、利害の世界を好みません。このようなことから「芸術」「宗教」という精神的意味合いをもっているのです)

肉体は現実の世界にありながら、心の中では精神的に生きようとする、そこに生じる苦しみは現実の世界から逃れようとして、逃れきれず、また現実に戻される事なのです。

このように、精神の世界では無意識の世界に突入しているのですが、肉体と精神を切り離すことが出来ず、精神は常に現実の世界からコントロールされているのです。夢と現実の谷間を、さまよう天胡星の世界は、自分を自分でいじめることによって、エネルギーの消化が果たせるのです。

これらのことから、感受性の強さをつくり出し、直感力の鋭さをもっています。しかし、この直感は現実立脚した直感力であり、靈感などと呼ばれる無限のそれではないのです。

## 天胡星中殺

天胡星はもともと勤が鋭い星なのですが、この星が中殺されますと、さらに拍車がかかって一層強調されるのです。

本来、天胡星のもっている勤は現実立脚していますだけに、その直感力は、起り得る現象をいち早く予測したり予言する事が出来るのですが、時間的予測までは出来ないのです。(ふっとひらめきで発言した事が、近い招来に必ず実現ののですが、予測し予言することは可能であっても時間的勘念が伴わないのです。)

しかし、この星が中殺された場合の勤は、単に勤が鋭いというのではなく靈感の一種に近くなるものなのです。(それは、天胡中殺者には靈感者の素質があるからで、精神力を集中して得た予測・予言は、近い招来、必ずと云っていいほど現実のものとなるでしょう。この靈感は「勤が冴える、とか」「ピンとひらめく、といったもので、同じ靈感の素質が出て来る天極星中殺・天報星中殺とは違うものです。人によっては特定のことに勤が冴える傾向が出て来るのが特色なのです。たとえばギャンブルやスポーツの勝敗或は他人の主人の浮気・子供の事故などは予知出来ても、自分自身に関わることになる全く勤が働かない……といった具合なのです。)

天胡星は本来「病人の星」といって感情的なあきらめをもっていますが、それが中殺されるものですから、あきらめを通り越して、開き直った人生を歩む事になるのです。

(妙に図太く無神経な人付き合いをしたり、身内や上司に対してなまいきな口をきいたりして他人の反感をかいやすい状態を平気でするのです。それが高じれば当然争いごとに発展することにもなるのですが、本人としては自分自身に原因している意識が全くといってないわけです。それだけに、この星が中殺されている人の行動・言動は、第三者に言わせると「わがまま」で「自分勝手」な人となるだけに、天胡中殺者に見れば、それが誤解されていることであることを弁解出来ない苦悩となるのです。)

天胡中殺の人は、とくに原因らしい原因がないのにノイローゼに陥ることもあります。人によっては再起が危ぶまれる事態ともなりかねません。

しかし、多くは孤独の中で、遊芸を好み、芸術を愛し、自分でたのしむ人となりを作ります。